



滋賀県立総合病院

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

都道府県の情報

都道府県内の総人口
がん死亡者数 (%)
がん死亡数(人口10万人対)
高齢化率
がん75歳未満年齢調整死亡率
(人口10万人対)

140.6万人(2023年7月)
3571人(26.1%)(2021年)
253.1人(2021年)
27.0%(2023年7月)
59.0人(第2位)(2021年)

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

都道府県内のがん患者の状況(2019年)

がん種	罹患者数	年齢調整 罹患率	死亡者数	年齢調整 死亡率
肺がん	1408人	45.4%	772人	20.1%
結腸がん	922人	30.7%	330人	8.7%
直腸がん	483人	19.1%	138人	4.2%
胃がん	1379人	44.7%	482人	13.3%
乳がん	899人	43.1%	139人	5.9%
肝臓がん	363人	11.0%	216人	5.6%

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病院 1施設
県立総合病院 535床

地域がん診療連携拠点病院 5施設

大津赤十字病院	684床
滋賀医科大学医学部附属病院	603床
彦根市立病院	438床
市立長浜病院	565床
公立甲賀病院	413床

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

がん診療病院の情報

地域がん診療病院

1施設

高島市民病院 210床

滋賀県指定のがん診療連携支援病院

6施設

市立大津市民病院 401床

淡海医療センター 420床

済生会滋賀県病院 393床

近江八幡市立総合医療センター 407床

東近江総合医療センター 320床

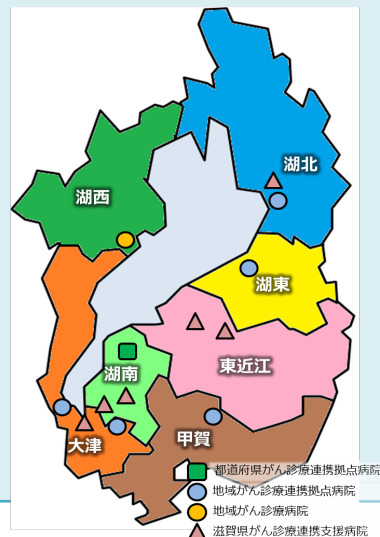
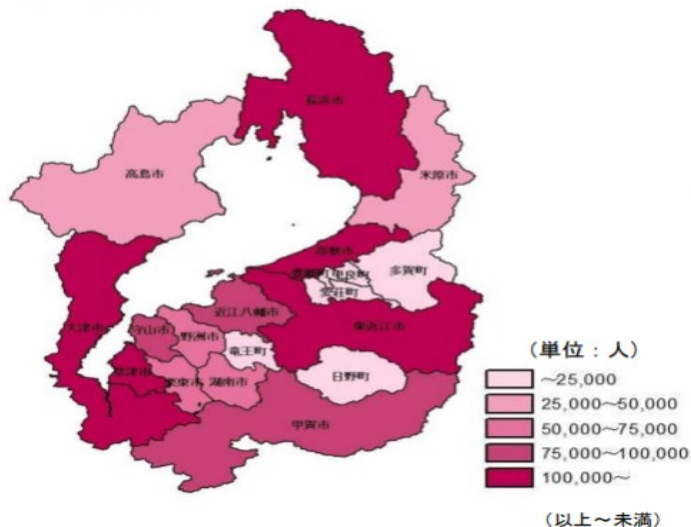
長浜赤十字病院 492床

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

都道府県におけるがん医療の特性

- 滋賀県の総人口は1,406,408人で大津市、草津市、長浜市の順で多い
- 二次医療圏に1か所以上はがんに関する指定病院を設置
- 県南部に都市部と医療機関が集中し、湖西は他医療圏に依存度が高い

【図16】市町の人口



病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

- ・がん看護において、がん診療連携協議会が、がん看護研修プログラム、地域におけるがん化学療法看護研修を開催している。
- ・滋賀県県病院薬剤師会で、がん薬物療法カンファレンス、地域のがん療法を支える薬剤師養成コースその他研修会を開催している。

【課題】

- ・腫瘍内科を設置する病院はほとんどなく化学療法を中心的に担う部署や科が存在しないため、医師を含む他職種の化学療法の教育や研修を主導しにくい。個別の医療機関で小規模な取り組みが散発的に行われることはあるが継続性がない。

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

都道府県単位でがん医療の質向上に資する活動

＜第1回滋賀県化学療法研修会開催＞

目的)がん診療病院の医療者間で継続的に意見交換ができる関係・人脈を作る

一般目標 (GIO)

継続的に施設間が相互に情報交換しレベルアップできる関係を作る

到達目標 (SBO)

- ・各施設が工夫する取り組み、職種の業務分担などを互いに知る
- ・他施設の取り組みのうち優れたものを自施設に取り込み、普及啓発を図る
- ・各施設で(職種を問わず)若手指導し人材育成する意識を持つ

対象)滋賀県内のがん診療に携わる医療者

開催日時)2023年2月23日13:30～16:00

開催主体)滋賀県立総合病院のがん化学療法に携わる医療者

内容)県内の4施設の化学療法の取り組み紹介後、ディスカッションを行った

病院名 滋賀県立総合病院

都道府県名 滋賀県

研修でうまく行えている点をあげてください

- 複数施設、複数職種の参加が得られた。
- 比較的どの職種にとっても関与しやすいテーマを選べた（各病院の化学療法室における副作用マネジメントなど）。

上記が上手く行えるように工夫している点は何ですか

- 他院でもコアになりそうな人に個別に根回しを行い、参加呼びかけなどの協力を得た。
（認定看護師の県内グループLINEなどが非常に有用だった）

病院名 滋賀県立総合病院

都道府県名 滋賀県

研修で困っている事をあげてください

- 開催日の告知をもっと早くから行うべきであった（年度内に行うため時間的余裕が少なかった）。
- 滋賀県がん診療連携協議会の協力を得ようとしたが、塩対応で全く協力を得られなかった。結果的に県レベル主催ではなく当院単独主催の形となったほか、予算も全く無い状態であった。
- 大学病院や比較的大きな拠点病院では、認定看護師・薬剤師の参加が多い一方で、医師の参加は極めて少ない。どの職種にも（医師にも）関心を持ってもらうテーマの選定が難しい。
- 毎年開催してほしいという意見もあったが、正直毎年開催はしんどい。持続可能性に課題がある。
- 事後アンケートでは一部の他院参加者からかなり辛辣な批判的意見もあって、主催側の苦勞を理解してもらえない（かといって手伝ってくれるわけでもない）。

病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県


研修計画の評価

【研修デザインに関する評価】

- 看護師・薬剤師・MSWなど複数職種に関わるテーマを選べた
- 医師の参加が少ない(複数診療科の医師に興味を持ってもらうテーマ選定が難しい)

【研修結果に関する評価】

- 研修そのものは概ね好評であったように思われる
- 日時の決定などはもう少し早くから行う必要がある



病院名 滋賀県立総合病院
都道府県名 滋賀県

次回に向けた課題と方向性

【課題】

- 当院単独主催で持続的に定期開催するのは、しんどい
- 「研修会の後も顔が見える関係を作る」という達成度が不十分

【方向性】

- 県がん診療連携協議会の主催にする必要がある
- 他院の協力を得る
- 定期的に連絡が取り合える形を作る

研修の概要

【タイトル】

外来化学療法の実の向上のために

【目的】

セルフチェックシートを使用してピアレビューを行うことにより、化学療法室のレベルアップを行う

【対象者・人数】

県内の化学療法に携わる医療者、50名（主催：滋賀県立病院、
共催：滋賀県、滋賀県がん診療連携協議会
滋賀県病院薬剤師会）

【目標】

一般目標(GIO)

がん薬物療法についての困りごとについて話し合うことができる(外来化学療法室における「外来化学療法室の質をアップするためのセルフチェックシート」を使用して)

到達目標(SBO)

各施設の化学療法室の出来ていることと出来ていないことを可視化し、困りごとを解決し、化学療法室のレベルアップにつとめる

プログラム

2024年 秋（土） 滋賀県立総合病院内 4階講堂

開始	終了	時間	研修方法	内容
14:00	14:05	5分	集合研修	挨拶（研修会の目的）
14:05	14:15	10分		セルフチェックシートの紹介
14:15	15:30	75分		各施設の発表（4～5施設、各15分）
15:30	15:45	15分		休憩
15:45	16:15	30分		職種別GW（ファシリテーター入れる）
16:15	16:45	30分		施設別GW（今後について）
16:45	17:00	15分		各施設からの発表（GWの内容）
17:00	17:10	10分		挨拶、アンケート



研修の評価

【実施評価】

アンケートを実施

【結果評価】

各施設からのGW後の発表

研修終了後に実際の現場で研修内容が活かしているかの事後調査

【企画評価】

アンケートを実施

第2回滋賀県がん化学療法研修会

日時 2024年秋（土）14:00～17:15

場所 滋賀県立総合病院 4階講堂

セッティング

担当

用意するもの パソコン、マイク、机、椅子、白板

【学習目標】

- 一般目標（GIO）：がん薬物療法についての困りごとについて話し合うことができる
（外来化学療法室における「外来化学療法室の質をアップするためのセルフチェックシート」を使用して）
- 到達目標（SBO）：各施設の化学療法室の出来ていることと出来ていないことを可視化し、困りごとを解決し、化学療法室のレベルアップにつとめる

【事前準備】 各施設への案内、参加者のGWの振り分け

【会場準備】 机の配置、GWの場所の設定

【すすめ方】 GWではファシリテーターを各グループに配置する

【セッションでの留意点】 参加者が能動的に取り組めるようにする